

まほらいな市民大学の様子

令和7年12月11日（木）長谷 ふるさと講座

『 ワッカアグリの米作りとむらづくり 』

講師 Wakka Agri 取締役社長 細 谷 啓 太 氏



講師の細谷啓太さんは北海道生まれで、大学では文学を専攻していましたが、20歳の頃「どんなに社会が変化しても、人が食べることは変わらない。食べ物を作る農業の重要性は変わらない」と思い立ち、「農業の世界」で生きていくこと決断したそうです。茨城大学農学部へ編入学、さらに岩手大学連合農学研究科博士課程で学び「稲作の研究」をされました。ベトナムの稲作研究プロジェクトに携わった後、Wakkaグループ代表の出口友洋氏と出会い、伊那市長谷中尾に来訪。Wakka Agri社員として米作りの現場に立ちました。(株)Wakka Agriは輸出米専用農業法人であり、香港、シンガポール、台湾、米国などで米の販売を展開していること。「カミアカリ」「ササシグレ」といった品種を作付していること。会社も事業規模が拡大していることなどの話がありました。

さらに、若者が減少傾向にある地域を盛り上げたいと願い、長谷小・中学校への給食米の提供、中尾集落に保存されていた子供神輿を復活させる「棚田まつり2024」を企画し、子供神輿以外にも、尻相撲大会、盆踊り、棚田ライトアップ等を行い、300名以上の来場者となったという話がありました。

学生からは、「中尾地区の米が世界とつながっているという壮大な取組に感動しました。地域が元気になり、活性化することを願うその心意気にも感動しました。」「素晴らしい生き方をされているなあとも感じました。希望が目先に見えてくる明るい講座でした。地域を活性化するおまつり、すばらしかったです。益々のご発展を祈っています。」

「自然農法の良さ、地域に密着した経営方針に共感しました。地域おこし、すばらしい企画。夢は大きく、期待しています。」といった感想がありました。